

資料編

ワークショップキット

「避難所の糸ほぐし」「避難所運営ゲーム」両方で使用するもの

- 1 「進行5つのポイント」
- 2 「あと10分」「あと5分」（時間管理用表示）

「避難所の糸ほぐし」で使用するもの

- 3 「避難所の糸ほぐし」（タイトル）
- 4 「災害ボランティアとして大事なもの、大切にしなければ
ならないものは何か」（ワークショップのテーマ）
- 5 「阪神・淡路大震災とはこんな災害だった」（資料）
- 6 情報タックル・カード
- 7 避難所平面図（校舎全体）

「避難所運営ゲーム」で使用するもの

- 8 「状況設定と与件」（資料）
- 9 避難所平面図（体育館）
- 10 発生課題1～6（記録用紙）

※この1～10のワークショップキットは、拡大コピーをすればそのまま実践に使用できます。

みんなで考え、

みんなですとめる

災害ボランティアに
ついてのこれまでの
考えを整理する

(課題抽出)

ザループで

パワーアップする

これからの

活動の方針を

生み出す

(課題解決)

他のグループ

- ・ 参加者と

情報の交流をする

あと 10分

あと 5分

フークシヨツプ

避難所の糸ぼぐし

災害ボランティアとして

大事なものの、

大切にしなければいけないことは何か

阪神・淡路大震災とはこんな災害だった

さまざまな背景を持った人が避難所へ
高齢社会襲い、暮らしの循環破壊

いまから11年前（引き算をして）の、1995年1月17日午前5時46分、兵庫県の淡路島北部を震源として大地震が発生しました。高齢社会に突入した現代都市がはじめて経験したこの大きな地震は、阪神・淡路大震災と名づけられ、都市の弱さと矛盾を一拳に露呈し、大勢の被災者が多くの難渋と向かい合わなければなりませんでした。

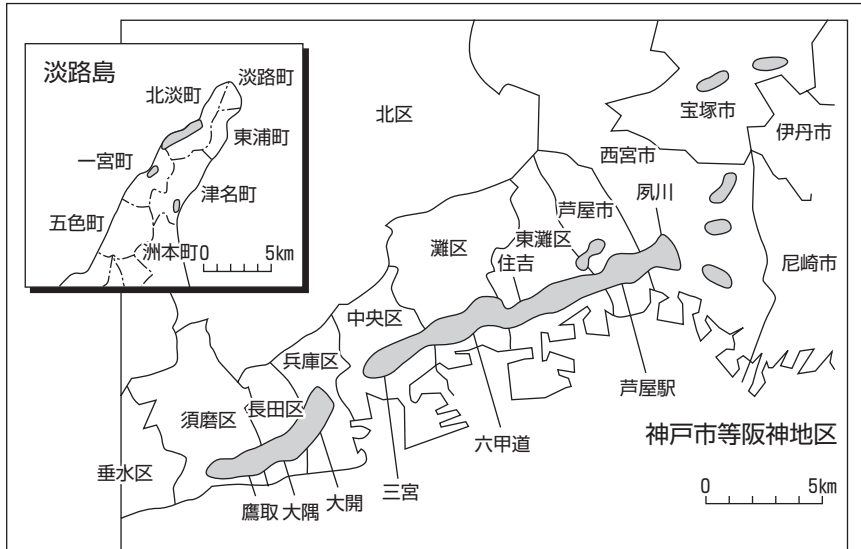
2005年に震災後10年を迎えましたので、20歳の人でも、当時はまだ小学生だったのですから、あまりはっきりとは憶えていないかも知れませんね。

その日は火曜日で、土・日・祝日と勤めの人や学生は3連休の明ける日だったのです。ほとんどの人はまだ眠っていたこの時、大きな揺れは一瞬にして神戸、阪神間のおしゃれなまちを壊滅させました。その時、ピカピカと稲妻のような光を感じたという証言がたくさんありました。鈍い地鳴りと大地の底から突き上げられるような衝撃は、淡路島と神戸市西部から東に走り、神戸市東部を経て芦屋、西宮、宝塚へと向かいました。その地域に「震度7の帯」とあとで言われた激烈な揺れが記録されました。震度階級の「震度7」は実は、阪神大震災ではじめて適用されたものでした。

気象庁によりますと、震度7に見舞われると、「人は落下物や揺れに翻弄され、自由意思で行動できず、耐震性の高い住宅・建物でも、傾いたり、大きく破壊されるものがある」と規定しています。

大震災は死者6,433人（関連死を含む）、行方不明3人、重軽傷者4万3,792人、全壊住宅18万6,175世帯、半壊住宅27万4,182世帯、全焼6,148棟、半焼69棟の未曾有の被害をもたらしました。このほか道路、橋、河川、学校、公共施設などに被害が広がり、兵庫県は、被害総額は約9兆9,268億円にのぼると推定しました。

この地震で亡くなった人の大半は、つぶれた家や倒れてきた家財道具の下敷きになった窒息死でした。一方、壊れた家から救い出された人のおよ



阪神大震災の「震度7の帯」（灰色の部分）
（消防庁「阪神・淡路大震災の概要」）

そ8割は、近所の人によって救出されています。大きな災害のときは、地元の消防、警察などの公的な機関も被災してしまい、役に立たないことを知らされました。

その日、1月17日の午前7時21分ごろ、地元のラジオ局のラジオ関西からショッキングな話が流れました。

地震の現場をレポートして回っていた記者が、神戸市長田区の大きな火災現場にやってきて、手にけがをした男性に「家族の方は」と安否を気づかいます。

男性は落ち着いた声で「息子がひとり、もう死んでると思うね。下敷きになって、出されなかったですわ」

おどろいた記者は「息子さん、何歳」と尋ねます。

「38歳か…」の返事にかぶせるように、記者が「まだ安否がわからないのでしょうか」と聞きます。男性は淡々とした様子で「もう焼けたから、もう死んだと思いますわ…足が出てるんやけど、あとがでなかった」

「お父さんは、足までつかんで息子さんを引っ張り出そうとしたけれど、なにかの下敷きになったんですか…」と記者。

「そうそう、そのうち火が来たもんやから『オヤジ、逃げてくれー』いうて」

「息子さんがそうおっしゃった、はーっ…」

「目の前で見殺しですわ」

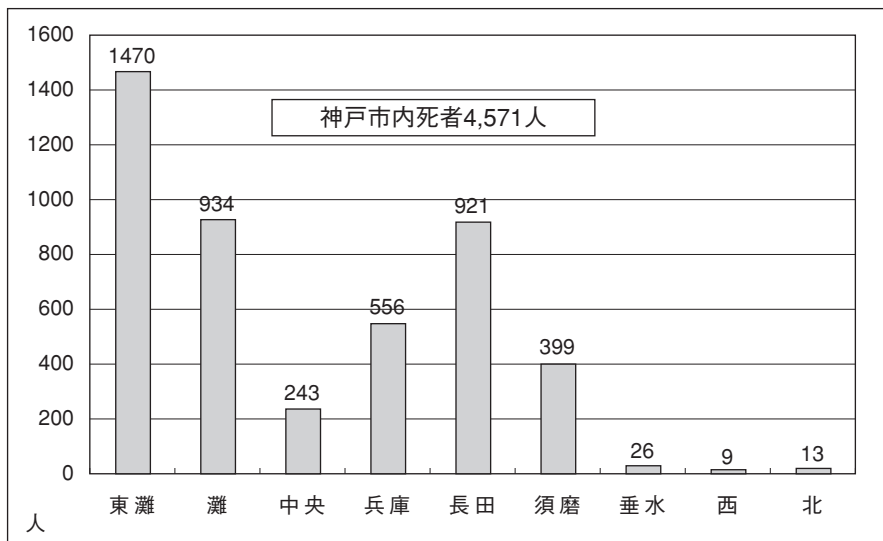
男性の静かな話ぶりが、かえって心に迫ってくる辛さを感じたりスナーも大勢いたと思います。

神戸市内を例にとって被災の特徴を見てみましょう。

同じ神戸市でも、西部の長田区は火災が発生し、まちの多くが焼け野原となってしまったのに対し、東部の灘、東灘区では火災はあったものの、幸い大きく広がりませんでした。また西部の長田区、兵庫区はいわゆるインナーシティー問題を抱えた地域でした。比較的若い人々は郊外の新しい住宅地に転出し、高齢世帯や高齢独居世帯が、狭く古い長屋などに残り、昔ながらのスタイルで近隣同士が支え合いながら暮らしていました。そこを災害が襲ったのでした。

壊れた家や倒れてきた家具の間に挟まったりしたお年寄りを救出したの

神戸市内区別の死者数



出典：神戸市資料阪神・淡路大震災―被災状況及び復興への取り組み状況、

<http://www.city.kobe.jp/cityoffice/06/013/report/hisaijyoukyou180101.pdf>

は、近所の顔見知りの人でした。九死に一生を得た人は「ああ、人のやさしさを知って生きていてよかった」と涙ながらに喜び合いました。

神戸市内の区別に見た死者の数は東灘区が最も多く、火災の激しかった長田区よりも東灘区の方が約500人も上回りました。灘区も934人と長田区よりも大勢の人が亡くなりました。

その東灘区の福池小学校は地震後、近所の人たちが詰めかけて避難所になりました。

福池小学校の避難所記録を見ますと、先生方が駆けつけたときには、もう近所の住民が学校内に入り込んで震えていたそうです。学校には、およそ1,200人、最大ピーク時には2,000人という被災者の方々が集まってきました。そして遺体が運び込まれました。先生がそっと顔をのぞき込むと、その人は何と同校の卒業生だったのです。先生の嘆きと驚きは想像できないほど大きなものであったに違いありません。近くの建物はほぼ全壊状態のため、次々と遺体が運ばれてきました。全部で19体の遺体を理科室に安置しました。

あとで保護者会のメンバーが校区すべての住宅や商店を訪ねて調べたところによると、福池小学校区内の全戸数は当時2,017戸。そのうち63%に当たる1,267戸が全壊でした。半壊は15%。両方合わせると78%の家庭が大きな被害を受けたわけです。

生後3か月の赤ちゃんもお母さんと避難してきました。最初の夜は、やはり赤ん坊なりに何か違いがわかるのでしょうか、落ち着かず一晩中泣いていたそうです。職員室で先生方が代わる代わるあやしたり、近くの倒壊した薬局からもらってきた粉ミルクをスプーンで飲ませたりしましたが、泣き声が迷惑をかけないかと恐縮するお母さんの顔が忘れられないと、立ち会った先生は言っていたそうです。

ここでも教室に入りきれない被災者が、廊下にふとんやマットレスを敷いてがんばりました。他の避難所では寒い廊下に寝泊りしたために風邪をこじらせ、肺炎になって病院に救急車で運び込まれたり、そのまま亡くなってしまった人もいました。救援にやって来た各地の医師や看護師は「地震で命が助かったのに、避難所の肺炎で命を落とすなんてあってはならない」と、懸命に注意を呼びかけましたが、避難所のなかの空気は厳しくなってきました。

高齢者や障害者、外国人への風当たりが厳しくなった時期もありました。つい1週間前に、人のやさしさに感激して「生きていてよかった」と言っ

た、その同じ人が今度は「こんな辛いのなら、あの時いっそう死んでおけばよかった」とつぶやいたのです。環境や生活条件の大きな変化についていけない人たちを、守ったり支えたりする仕組みを失っているのでしょうか。

きょうのように避難所を舞台としたワークショップを行う時に、こうした特定の避難所を思い浮かべながら考えると、イメージが集中できていいかもしれません。

また、後日の話ですが、神戸市内の女子高生がこんな作文を書いています。

「前の晩、母と喧嘩をして『こんなお母さんなんかいらん。死んだらいいのに』と思って寝ました。

そうしたら地震が来てお母さんは本当に死んでしまいました。私があんなこと思わなかったら、きっと死なずにすんだのに…」

この女子高生はこう読み上げると、原稿用紙を握り締めたまま泣き崩れてしまいました。

避難所にはこうしたさまざまな背景を持った人々が逃げ込んできたのです。被災地全体で避難者は、1週間目に316,678人を数え最高を記録しました。避難所の数も1,153か所に達しました。

ほとんどの避難所は最初の食べ物が届いたのは、地震発生から12時間以上たった17日の深夜になってからでした。大半の人は丸1日、飲まず食わずに耐えることから、避難生活がスタートしたのです。

避難者は避難所から抽選で仮設住宅に移りました。そしてまた抽選で公営復興住宅に移りました。元々の近隣関係を地震によって壊され、避難所、仮設住宅でようやく、つくりあげた人間関係をまた白紙に戻し、またいちから関係づくりを始めなければならないということは、ずっと緊張した人付き合いを続けてきたということです。とくに高齢者は環境の変化になかなかついていけず、孤立感を深めていました。この頃から「孤独死」という言葉がマスコミにしばしば登場しました。

地震から命を救ったのが近隣のコミュニティだったことから、コミュニティの大切さが叫ばれていましたが、このようにコミュニティを壊す方向への力が働いたのは残念なことでした。実はこの経験が新潟県中越地震の仮設住宅入居に生かされました。中越では仮設住宅へ集落単位で入居でき、

少なくとも「隣近所はみんな顔なじみ」で、少しでも不安を和らげる配慮が実現しました。阪神大震災の教訓が汲み取られたわけです。

大震災は人々の暮らしの基盤を破壊しました。年金で生活していたお年寄りや下町の長屋で、近所の高齢者と手を取り合ってつつましく暮らすことができていました。工場と住宅が混在するまちはいろいろ課題もありましたが、工場から注文のある内職仕事や、パートの仕事が生活を回していたのも事実です。

働き盛りの人も大勢が仕事を失いました。会社や工場が壊れたり焼けてしまい再建できなかったケースもありました。お得意さんの被害が大きかった余波を受けて、成り立たなくなった事業所もありました。商店を苦心の末、再開したものの肝心のお客がまちに戻ってなくて苦戦を強いられているお店もあります。

このように暮らしを維持しているさまざまなつながりのどこかが切れてしまったために、多くのひずみが生まれています。そのひずみは個人を直撃するのは当然ですが、地域やまち全体にも大きな影響を与えます。

災害とは、この人と人のつながり、事業とのつながり、地域社会とのつながり―など、多くの連鎖と循環を壊してしまうものなのです。

私たちは、全国どこで起こった災害であっても、被災した人を支援し、崩れた被災者の暮らしの輪を思い浮かべ、そして学んでいくことを、今回のワークショップを通じてぜひ実感したいものです。

(参考：阪神大震災関連資料)

(1) 人的、物的被害等

人的被害	死者		6,433人	非住家	公共建物	865棟	※厚生省調べ ※資源エネルギー庁調べ ※資源エネルギー庁調べ ※郵政省調べ
	行方不明者		3人		その他	3,983棟	
	負傷者	重傷	10,683人	文献施設	941箇所		
		軽傷	33,109人	道路	10,069箇所		
		計	43,792人	橋梁	320箇所		
住家被害	全壊		104,906棟	河川	430箇所		
			186,175世帯	崖くずれ	378箇所		
	半壊		144,274棟	ブロック塀等	1,480箇所		
			274,182世帯	水道断水	約130万戸		
	一部破損	263,702棟	ガス供給停止	約86万戸			
	合計	512,882棟	停電	約260万戸			
			電話不通	30万回線超			

※水道断水、ガス供給停止、停電、電話不通については、ピーク時の数である。

(2) 火災

出火件数				焼損床面積
建物火災	車両火災	その他火災	合計	
261件	9件	15件	285件	834,663㎡

用途 焼損区分	住家	非住家		計
		公共建物	その他	
全焼	6,148棟	5棟	829棟	6,982棟
半焼	69棟	0棟	20棟	89棟
部分焼	238棟	6棟	55棟	299棟
ぼや	103棟	1棟	9棟	113棟
計	6,558棟	12棟	913棟	7,483棟

り災世帯			
全損	半損	小損	計
8,414世帯	182世帯	421世帯	9,017世帯

(消防庁：阪神・淡路大震災関連情報データベース、
http://sinsai.fdma.go.jp/search/abstract.php?TOSHO_ID=N0000014&DATA_ID=0001&LEGAL_ON=1)

(3) 仮設住宅

仮設住宅建設戸数48,300戸。ピーク時（平成7年11月15日現在）46,617戸の入居。仮設住宅の解消は平成12年1月14日をもって入居世帯が全て解消し、平成12年3月末までに解体撤去を完了した。

（兵庫県：阪神・淡路大震災復興誌第1巻 p.231, 234）

(4) 復興公営住宅

住宅復興計画 計画戸数125,000戸に対して173,300戸が供給
うち、災害復興公営住宅はシルバーハウジング（高齢者世話付住宅）、コレクティブハウジング（協同居住型住宅）を含めて、計画戸数38,600戸に対して42,137戸の供給を行った。

（兵庫県：阪神・淡路大震災復興10年総括検証・提言報告「各種調査資料」p.448）

(1) 被災後、最初の救援物資が来たのは、何と発災から12時間以上がたった18時過ぎだった。区役所から連絡があって約10人が徒歩で取りに行った。(95.1.17、神戸市長田区の小学校避難所日誌) [支援者]	(2) 3月以降、避難所がなくなるのではとの噂が一部で流れていますが、学校などの避難所に避難されている住民の皆さんの生活については最優先で取り組んでいますので、直ちに避難所を閉鎖することはありません。 (95.1.21、神戸市中央区の小学校避難所新聞) [支援者]
(3) 私たち小学生は、朝や夜に流す水をバケツリレーで運んでいます。だからできるだけみなさんにも手伝っていただきたいです。 (95.1.22、神戸市中央区の小学校避難所新聞) [支援者]	(4) 老人の肺炎患者が急増し、この5日間に救急車で運ばれた人が15人もいる。ここが過密になって廊下で寝ている高齢者が多いのが原因だ。折角災害を乗り切ったのに、劣悪な環境で死者を出したくない。(95.1.27、神戸市灘区の小学校避難所ニュースに医師の投稿) [支援者]
(5) 今まで本校の教職員がしていた次の仕事を避難されている皆様方をお願いして、私たちは学校再開に備えたいと思っています。 ◆白湯、お茶(おかゆ)の炊き出し◆便所、部屋、校内の掃除◆食事用資材の運搬、仕分け、分配◆救援物資の運搬、仕分け、整理、分配。(95.1.28、神戸市長田区の小学校避難所日誌) [支援者]	(6) 京都府下の中学生です。何ひとつ皆さんと直接かかわって手助けすることはできませんが、ツルの一羽一羽に611名全員の気持ちを込めています。私達には皆さんの本当のつらさはわかりません。だけど自分達の問題としてとりあげ学ぼうとしています。 (95.2.11、神戸市長田区の小学校避難所日誌) [支援者]
(7) 私たちはボランティアの精神でやってきた医師です。でも災害にあわれた方々を『被災者』として扱っていないか。私達が『救援者』の肩書きで接していないか、という事を日々反省しています。災害にあわれた方々は、「被災者」である前に私たちと同じ人間です。 (95.2.7、神戸市東灘区の小学校避難所新聞) [支援者]	(8) 地震発生以来一週間がたちました。本日から本校では「厳しい生活の中で最高のマナーを」をスローガンとしていきたいと思います。人として大切な心だけは失わずに頑張っていきましょう。(95.1.24、神戸市東灘区の学校避難所チラシ) [支援者]

(9) ボランティアとして「課題を見つける」とは、地域再建に取り組んでいる人達の話を聞き、自分の目で見て、一緒に話し合い、自分の感性で課題を見つける。それを皆のものにしていくことである。(95.3.20、神戸市内診療所への応援医師のレポート) [支援者]	(10) 血圧を測っている看護婦さんたちに、中年の女性がやってきて「こら！早よ、うちとこのばあさんの血圧測ったらんか！待つのにイライラしてもっと血圧あがってしまうやろが」と大声で怒鳴りつける。看護婦さんは顔色ひとつ変えず「ごめんなさいね」と笑顔でてきばきと対応。患者家族も最後には「ありがとな」と態度も変わっていく。ベテランナースはよく分かっているのである。我々が被災者を診ているのではなく、地域の人たちから我々が見られており、ともに今を生きているということを。(95.3.20、神戸市内の診療所レポート) [支援者]
(11) わが養護学校の卒業式が無事終了できました。避難所になっていることから、例年がない共同生活自治委員会の代表の方々や地元自治会、学校開放の世話係さんなどにも列席いただき子ども達の門出を祝っていただきました。温かい拍手に送られたことは卒業生と保護者にとって忘れられない一コマだったと思います。(95.3.18、神戸市内の養護学校避難所自治会ニュースに養護学校長が投稿) [支援者]	(12) 避難所生活が長期化するにつれて被災者の不平、不満は一日一日大きくなっているようでした。特にプライバシーが守れず、他人の行動、表情、会話に気をとられて、心を休める場所がない状況でした。(95.3.31、神戸市内の学校避難所自治会ニュース、地元保健所長投稿) [支援者]
(13) 震災で被災して車椅子の必要な方に無料で差し上げています。体の不自由な子ども、大人、お年寄りの方とその家族、またはその関係者の方などです。取りに来ることが可能な方はお越しください。無理な方にはお届けします。遠方に避難している方も送付可能です。連絡先TEL/FAX****-****-***** ××工房(芦屋市の保育所避難所チラシ) [支援者]	(14) 但馬地域の各漁業協同組合では、漁船乗組員として来て頂ける方を歓迎します。必要な方には住宅もお世話します。また、当地域には水産加工など女性の仕事もたくさんあります。特に必要な資格はありません。給与：漁獲金額に基づく歩合制。(最低保障制度があります) 平均月給20—60万円(昨年度実績)。年齢：おおむね50歳まで。(芦屋市の保育所避難所チラシ) [支援者]
(15) だんだんボランティアの学生が減ってきているので、今後食料や日用品は被災者自身による自主管理が必要となる日が来ると思われる。そこでみんなで手伝いをしながら、実際に見て覚えていってほしい。(95.1.31、神戸市灘区の小学校避難所ニュース) [被災者]	(16) 当避難所のある班は、班長の家族以外は、お年寄り6人と、小さなお子さんをかえ、ご主人は仕事に出ている6家族で構成されている。近々、班長の家族が避難所から出ることになっている。残されたお年寄り6人は体が不自由な人や、食料を上へ持ってあがれない人ばかり。班の再編成を考えなければならなくなる。(95.2.9、神戸市灘区の小学校避難所ニュース) [被災者]

(17) 体調のすぐれない私は、地震後4日目ぐらいには倒れてしまいました。子どもの転校、知らないところで生活、8月には病状が悪化した私の父の死などが続きました。そんな中でも人の温かさ、笑顔、強さ、思いやりがどれほど私にとって救いとなったかを忘れることは出来ません。涙が出たり、笑ったり、悩んだり出来るのも命があるからで、なくなられた方のことを思うと無念だったでしょう。(神戸市東灘区の小学校避難所記録集) [被災者]	(18) 自宅も家族も大丈夫だったにもかかわらず、何も出来ず、ただ自分が生活すること、ボランティアしてもらうこと、善意に甘えていた自分が恥ずかしいです。もっと何か、出来たかなと、今思います。(神戸市東灘区の小学校避難所記録集) [被災者]
(19) 被災者と呼ばれる立場になって初めて、これまでよそで起こった災害に対して、いかに無関心にすごしてきたかに気づき、とても申し訳なかったと反省しました。大勢のボランティアが来られるのを見て、体が無事だった自分も何かしなければという、あせりに近い気持ちを持ちましたが、たいしたこともできませんでした。いつかきっとこのお返しをしたいと思っています。(神戸市東灘区の小学校避難所記録集) [被災者]	(20) 自宅が全壊したが、私たちはどこも避難せず、近くの両親の自宅で過ごした。ところが情報が入らずに困った。自宅で過ごした人も多いと思うので自宅の人への情報伝達の方法を今後の課題のひとつとしてほしいと思います。(神戸市東灘区の小学校避難所記録集) [被災者]
(21) 二階建ての自宅が全壊し、完全に生き埋め状態になりました。その時、真っ先に駆けつけてくれたのは近所の人たちでした。近所の人たちがきてくれなかったら、私たちはあのまま死んでいたと思います。命の恩人です。これからも近所の方々との付き合いを大事にしていきたいと思っています。(神戸市東灘区の小学校避難所記録集) [被災者]	(22) 学校に避難しようと思ったのですが、子どもが入学する前で、学校との関わり方がわかりませんでした。(神戸市東灘区の小学校避難所記録集) [被災者]
(23) 妻の実家が気に入り車で向かう途中、何人もの人に「家族が生き埋めになっているので、どうか助けてください」といわれた。しかし妻の両親がどうしても気になり「すみません」と言って実家に着いたとき、案の定、生き埋めになっていました。何とか救出できました。もう少し遅れていたらと思うと…。途中で助けを求められた人、どうもすみませんでした。(神戸市東灘区の小学校避難所記録集) [被災者]	(24) 家の中がめちゃくちゃになっているが、損壊を免れた人達が、一番うろたえていました。家や家族を失った人はかえって悲しい中、しっかりやらないといけないと、自分を励ましていました。(神戸市東灘区の小学校避難所記録集) [被災者]

(25) 食べ物が悪い。いつも日の丸弁当だ。近くの避難所では幕の内が出ている。一度でいいから幕の内を食べてみたい。(95.1.30、神戸市長田区の小学校避難所日誌) [被災者]	(26) 来週の月曜日、頭のカット&ドライシャンプーのサービスが来ます。人数は100人までなので、明日整理券を配ります。今後も何回か来て頂くので、今回、整理券をもらえなかったとしても安心してください(95.2.10、神戸市灘区の学校避難所自治会ニュース) [被災者]
(27) 昨夜7:00から4Fの廊下でコンサートがあった。社会人男女5人のグループで、沖縄やアジア音楽を演奏した。廊下一杯に集まった人達の中で、コンサートを終え「楽しかったわあ」と抱きついて喜ぶおばさんや「懐かしい…」と沖縄出身の女性が涙を流している姿も見られた。(95.2.11、神戸市灘区の学校避難所自治会ニュース) [被災者]	(28) 学校側から授業再開に向けての切実な要望があり自治委員会で話し合いを持ちました。住民からは「いつまでおいてもらえるのか」「同じ部屋でつくった人間関係が他の階に移ることで壊れてしまう」など様々な意見が出ました。一方、4階の方からは「不安があるが協力したい」、また下の階の方からは「再開に向けて快く受け入れたい」との率直な意見もありました。(95.2.17、神戸市灘区の学校避難所自治会ニュース) [被災者]
(29) 避難所に閉じこもっているだけでなく、外に出たらどうか。外では何でもそろっている。お金を使ってほしいものを買えばいい。お金を使うことで街も発展していくんだから。(95.2.19、神戸市灘区の学校避難所自治会ニュース) [被災者]	(30) 地震から1か月がたち、みんな大分落ちついてきていると思う。協力、助け合いができていし、とくにトイレそうじには大勢が参加し始めている。(95.2.19、神戸市灘区の学校避難所自治会ニュース) [被災者]
(31) 2月末日を目途にボランティアがしている仕事を私たちで引き継いでいくことになりました。これまでしてきた仕事の内容や手順をボランティアの人から説明してもらい、それを参考としてみなさんと分担していきます。(95.2.23、神戸市灘区の学校避難所自治会ニュース) [被災者]	(32) 班長会議のあとで「物資の配布が遅く、ほしい時にももらえなかった」との声がありました。物資の仕分けに時間がかかり、お渡しするのが遅れました。私共も一生懸命頑張っておりますが、何分皆様の意に副わない事がありましたのをお詫び致します。(95.2.24、神戸市灘区の学校避難所自治会ニュース) [被災者]

(33) だいぶ物資も足りてきて余裕も出てきましたが、その半面、住んでいる人の心にも変化が出てきたように思います。譲り合い、助け合いの気持ちが乏しくなって、自分中心になってきていませんか。思いやりの心を大切にお互いに気持ちよく生活しましょう！ (95.2.3、神戸市灘区の学校避難所自治会ニュース) [被災者]	(34) 今は大津のおじさんの家に住んでいます。お父さんにもお母さんにもおねえちゃんにも、なかなか会うことは出来ません。泣きたいときも、つらいときも沢山あるよね。仲の良かった友達も死んでしまいました。あの地震で沢山の命が奪われ、とても悲しいです。これを書いている今も、涙が出そうです。 (95.2.28、神戸市東灘区の小学校避難所新聞) [被災者]
(35) ラーメンの振る舞いがあった。そのラーメン屋さんも店が全壊したという。私の店も壊れたんやけど、もう一度、一からやり直そうという気持ちが沸いてきた。おいしいさつまラーメンを本当にありがとう。お店再開の日が一日でも早く来ますよう、心より応援しています。(95.3.5、神戸市東灘区の小学校避難所新聞) [被災者]	(36) 大声で「助けてくれ、妹が下敷きになっている」と叫んだ。学生らしい男たち4名が屋根に上がってきてくれた。私と学生1人が柱の片方に乗って体重をかけた。家具が少し上がった。2人の男が妹の衣服の両肩を引っ張り体が少し動いた。何度か大声を出してその作業を繰り返した。やっと全身が脱出した。助かった。「有難う」と学生たちに礼を言うと彼らは黙ってうなずいて帰っていった。(神戸市東灘区の個人日記) [被災者]
(37) お兄ちゃんが近所の人に頼んで、まず私が助けられました。しばらく待っていると、お兄ちゃんが「お母さんは、助け出されたけど、もう意しきはなかった」と、泣きながら教えてくれました。兄妹3人で「いとこの家に行こう」と歩きました。私はよその人にもらったスリッパを、お兄ちゃんは友だちにくつをもらっていました。はだしの妹は知らない人の家に、たのみにいって、大きなくつをもらってきました。(神戸市須磨区の小学生) [被災者]	(38) お父さんとお母さんが必死な声で助けを呼んでいました。私も身動きできません。「このまま死んでしまうのかなあ」と思いました。そのときです。近所の人がかべに穴をあけて、こっちへ進んできてくれました。近所のおじさんが、力いっぱいひっぱりだしてくれました。お父さんもお母さんも弟もみんな助かりました。でも私はここが神戸なのかわからなくなりました。(神戸市須磨区の小学生) [被災者]
(39) 避難所で「服をあげます」と放送があったらしい。ろうあ者は全く聞こえないので分からなかったが、みんなの様子を見て、「？」と思ってついて行った。あっ服だと分かったが、もうなくなっていた。ボランティアの人に、メモで「私耳が聞こえないので放送わからなかった」と書いて渡したら、その人がすいませんってトレーナーをくれました。ああ、耳不自由人の不便があったけど、何とか頑張っております。(95.2.17、ろうあ者の情報) [被災者]	(40) 早朝からタバコを吸う人の声が大きく迷惑です。(95.3.6、神戸市灘区の学校避難所自治会アンケート) [被災者]

(41) 私たちは今まで20年間、韓国、フィリピン、日本各地で労働ボランティアキャンプを行ってきました。私たちは全くの手弁当で働いており派手な活動は出来ませんが、行政や大組織の援助から得られない部分を応援することができます。(95.1.23、神戸市灘区の学校避難所自治会ニュース) [ボランティア]	(42) この近くのインド人夫妻によると、情報不足に困り、悩んでいるとのことでした。1日1回ラジオで英語情報が夜5分ほどあるだけで、何もわからない状態らしいです。きっとこの夫婦以外にも多くの外国人が情報が伝わらず困っていると思います。少しでも彼らの役に立つ情報を提供したいと考えています。(95.2.8、神戸市灘区の学校避難所自治会ニュース) [ボランティア]
(43) ①避難所の活動記録ノートで前日まで の救援活動の内容と引き継ぎ事項などを確認 ②前日の引き継ぎで避難所に出かけるときも ヒアリング調査記録用紙を持っていく③調査 結果を本部に報告する④配送する物品名とお およその量、また物品以外の要望に対する対 応などを用紙の空欄に記入。マニュアルに書 けないことにすぐく大切なことがあるので気 を付けて。(95.1.26、神戸市中央区のボラ ンティアセンター) [ボランティア]	(44) アパートで「おじいさんが配給も受け ずに6日間たった1人ですごしていた」。昨 日ようやく避難所の女性が見つけ、食事など を届けるようになったという。また、病気の 家族を抱え、1週間飲まず食わずの家もある とのこと。近所の住人さえ「まさか避難して いないとは思わなかった」と驚きの声を上げ ているようだ。(95.1.26、ボランティアグル ープのニュース) [ボランティア]
(45) 某避難所は被災者約170人に対してボ ランティアはたったの1人という実情だ。別 の小学校避難所は、老人の介助などができる 人材を求めている。いま自分の熱意を生かせる 場に出会えないボランティア也大勢いる。 私たちは、そういった「人手を必要としてい る人たち」と「ボランティア活動を希望して いる人たち」との橋渡しのような役割もはた していきたいと思っています。(95.1.28、 ボランティアグループのニュース) [ボラン ティア]	(46) 毎日100人近い若者が全国各地から「何 か自分でも役に立てないか」と申し出ている。 困っている人の役に立ちたいという若者が神 戸に集まってきているのだ。これはいったい、 どういう意味なのか？恩にきろだとか、感謝 しろだとか、言っているのではなく、そうい う彼ら（僕ら）の思いも十分の一でもいい、 理解して欲しい。(95.2.3、ボランティアグ ループのニュース) [ボランティア]
(47) 朝7時、公園の一角に30人余りの人が 集まる。一晩かけて作り上げたニュースを配 りに散っていく。東北なまりや九州弁が飛び 交い、みんな大声で話し合う。実に雑多な集 団である。各々やりたいことも異なり、地元 の方々のニーズにも臨機応変に対処してゆけ るのかもしれない。手も顔もススで真っ黒に なりながらも、目だけは爛々と光っている。 (95.2.4、ボランティアグループのニュース) [ボランティア]	(48) Aさんの妻は震災の前日に入院した。 2人が離れ離れになって20日が過ぎた。Aさ んから「妻に会いたい。連れて行って欲しい」 と電話があった。B男が担当となり、障害者 のAさんを乗せて病院に行き、外で待っていた。 奥さんがAさんの車椅子を押して降りてきた。 「ありがとうございます」。避難所に帰ると、「よ かったね」「ごくろうさまでした」みなが温 かく、AさんとB男に言う。B男は思った。感 謝したいのは僕の方だ。(95.2.10、ボラン ティアグループのニュース) [ボランティア]

(49) 私たちを呼んだのは、その部屋のおばあさんだった。ぐちゃぐちゃになった部屋を片づけるためだった。片端から捨てていった。部屋はきれいになったが、捨てたものの中に思い出のある品物がきつとあったのではないだろうか。果たして片づけてよかったのだろうか。(95.2.18、ボランティアグループのニュース) [ボランティア]	(50) 調査の目的は、入浴できない方をお風呂に入れてあげるための調査です。60歳以上で体の不自由な人をリストアップします。2月11日から連合の介護風呂が始まるので、2月12日からそのリストを基に入浴希望者を集めてサービスを始めます。 (95.2・11、神戸市長田区の高校避難所ボランティア会議ノート) [ボランティア]
(51) 夕方のミーティングで、女性ボランティアももう少し被災者一人ひとりとコミュニケーションをとるように心がけてと言われました。ここ一週間忙しい忙しいという気持ちが先に立ち、一番大切な部分が抜けていることに気付き、「はっと」しました。(95.2.15、神戸市中央区の学校避難所日誌) [ボランティア]	(52) 炊き出しの時、お年寄りの方に食事を運ぶとか、温めてあげるなどの個人的なニーズへの対応をやってもらいたい。出来る範囲で良いから・・・避難者の人と話して、誰がどんな手助けを必要としているかを把握していくように。(95.2.17、神戸市中央区の学校避難所日誌) [ボランティア]
(53) 最初にボランティアリーダーから「援助をするというのではなく、被災者と同じ立場で生活して下さい」という話を聞いた。この言葉のお陰で被災者と余り距離を置くことなく生活できたと思っています。「一緒に生活した者のみの方が分りあえる」これが今回私の得た貴重な教訓です。(神戸市中央区の学校避難所記録) [ボランティア]	(54) ボランティアの活動は、ここではこの、あそこではあそこのやり方があって、人と場所によって変わっていくものということを学べたように思う。(神戸市中央区の学校避難所記録) [ボランティア]
(55) 遠く離れた所で被災者の気持ちを考えるよりも、実際に本人にあって一声でもかけたいという気持ちでやってきた。避難所の人達のおだやかな表情からは特別なものが感じられなかったほどだった。だが、避難所の終期に起こった出来事から本当はみなさんが持っていた張り詰めた緊張した感情の一部を感じ取った気がした。その時、私は生半可な気持ちではボランティアはできないと深く反省した。(神戸市中央区の学校避難所記録) [ボランティア]	(56) 今日でボランティアも全員引き上げてしまいます。最後のボランティアになってしまいました。その時々によってボランティアとしてどう対応すればよいかも変化していて、改めてボランティアの難しさを知りました。たくさんの方に感謝していただき、とても感激しています。(神戸市中央区の学校避難所記録) [ボランティア]

(57) 神戸地区避難所炊き出し連絡会というグループがやって来た。①野菜等の安定供給②神戸市内150か所以上と連絡をとり合い、余剰物資を融通しあう③物流については大手物流会社を利用する—という提案をもってきた。理想主義的ではあるが実現すればすごいと思う。(95.2.26、神戸市灘区の小学校避難所日報) [ボランティア]

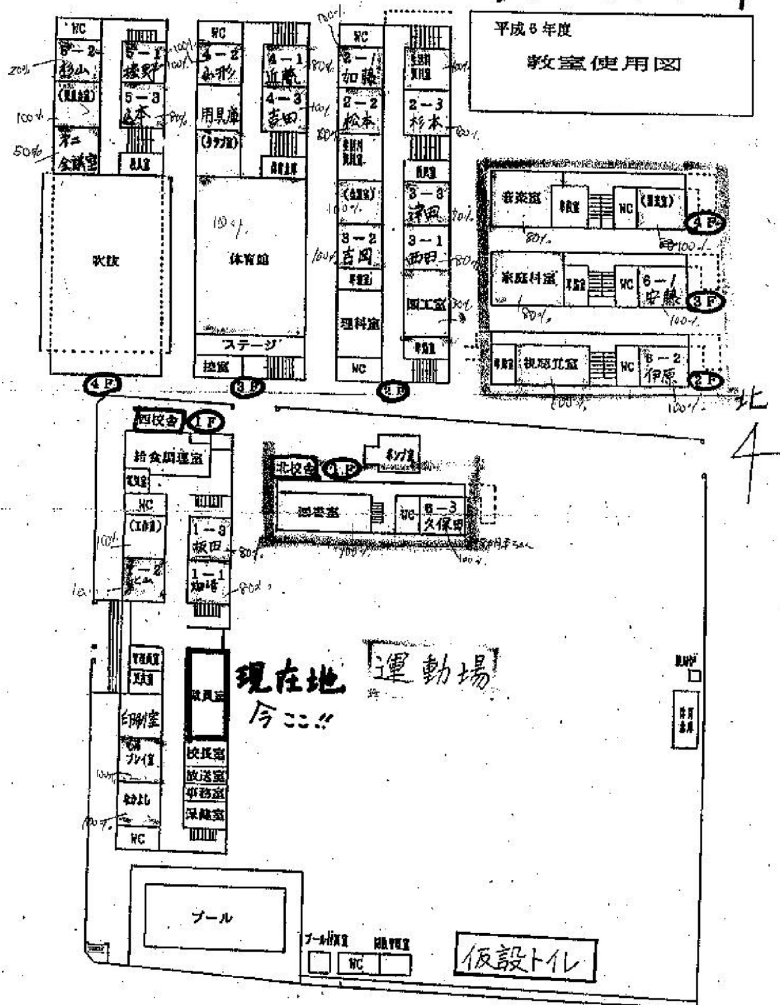
(58) 避難所新聞の記事を書くにあたって、ここの人達が今どんな情報をほしがっているのかがなかなか分からずにいました。でも新聞を配りつつ話をさせてもらった時、初めて自分本位の考え方だったことに気づきました。自分が何かをする、というのではなく、させてもらっているのだということを強く感じました。(95.3.12、神戸市灘区の学校避難所自治会新聞) [ボランティア]

(59) みんなで大きな絵をかこう。*月*日、*公園で。ぜひ参加して、たのしい時間をすごそうよ。私たちは、被災された子どもたちと「絵を描く」ことを通じて、楽しい時間を過ごし、少しでも励ましとなることを願い発足いたしました。皆様のご支援により長期にわたり活動していきたいと思ひます。(芦屋市の保育所避難所に配られたチラシ) [ボランティア]

(60) 避難所カフェの開店前に次の事柄に気をつけましょう。まず準備開始前に自治会室に挨拶をしましょう。日誌、反省ノートを必ず見ましょう。そして必ず手をきれいに洗ってから用意にかかりましょう。用意する飲み物はアイスコーヒー・アイ스티ー・冷たいお茶です。(神戸市灘区の学校避難所の喫茶コーナーの手引き) [ボランティア]

又三、是合

教室使用図



〔状況設定〕

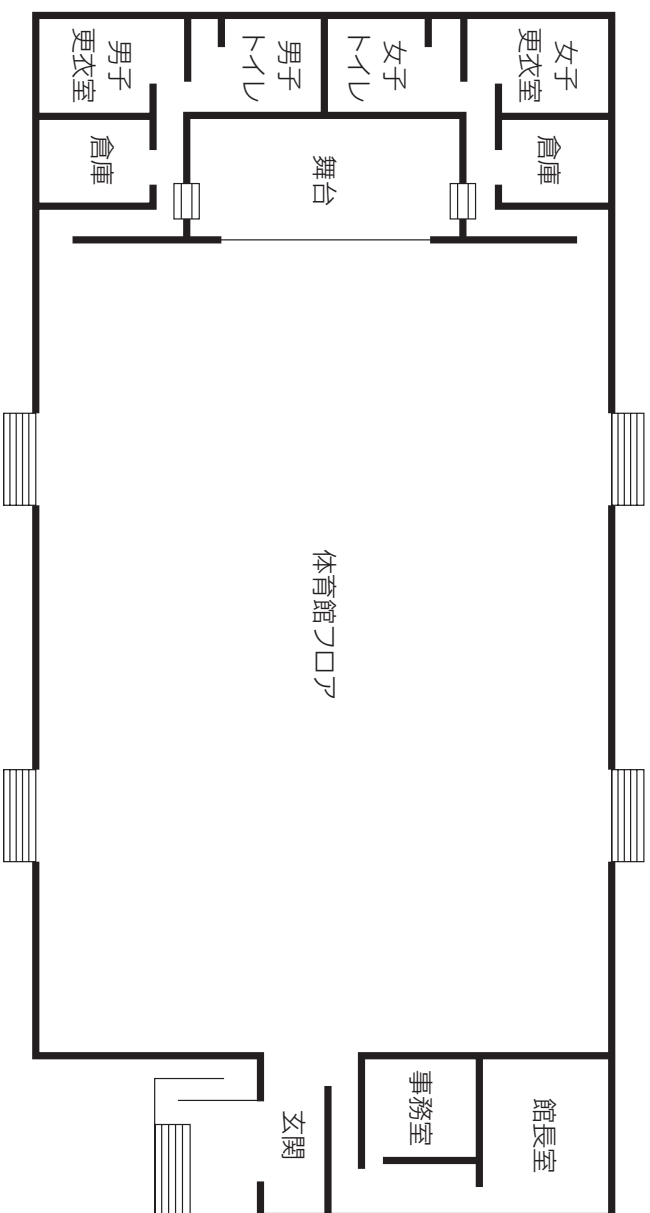
「真冬の某月某日、中小都市で。大地震で被災した住民がおよそ350世帯、1000人が中央体育館に逃げ込んできた。想定以上の災害であるため事前の防災計画で避難所に指定されていた小中学校、公民館等が被災者でいっぱいになったため、避難所に指定されていなかったその体育館に避難してきた。通常であれば、館長と数名の市職員が常駐しているが、地震の為、出勤がかなわず、たまたま集まったボランティアがグループを組んで避難所の運営に関わらざるを得なくなった。」

【与件1】避難所内の避難者の状況

1. すでに約350家族、1000人の被災者が体育館のコートいっぱいに、それぞれが持ち出した身の回りの荷物やダウンコートなどを持って（持っていない人もいる）、一応の区画割をして陣取っている。
2. 被災者が入ってきてしばらくたった段階で、代表者グループをつくって「自主管理」するよう要請したが、口々に拒否された。
3. 1000人の人たちは、ショック状態で気落ちしている様子は隠しきれず、ほとんどの人たちが黙りこくっているが、一定の“秩序”めいたものがあり混乱はない。

【与件2】避難所の施設・設備の状況

1. 気温は下がり、夜になるともっと寒くなると思われるが、館内には暖房設備は一切ない。
2. 電気はいまは消えているが、まもなくここは通電すると思われる。館内の照明機器は、壊れたりせず、大丈夫のようだ。
3. 食料、水はない。水道は断水している。貯水タンクは壊れているようで、蛇口をひねっても水が出ない。
4. 電話機はあるが、通話制限がかかっていて機能しない。
5. パソコンとプリンターがセットで一台ある。
6. 体育館の用具室、更衣室（男女2室）、予備室（40平米）館長室（約20平米）、事務室（約40平米、但し机などの事務機器でいっぱい）は鍵がかかっていて、誰も入っていない。鍵はボランティアが持っている。



避難所の平面図 (体育館)

発生課題①の内容

「被災者の中に、高齢者で体力の弱りが目立つ人と足もしくは腰が不自由で動きのとりにくい人が何人かいる。気分が悪さやトイレに行きにくいと訴え始めている。どうするか」

メモ

発生課題②の内容

「ペットの犬を連れれた高齢女性が体育館に避難してきて、先に避難していた住民から、入館を断られて、入り口で押し問答をしている。その女性の話では、さらにネコ2匹をつれた高齢女性が1人と、ウサギ1羽をつれた高齢男性1人がこちらに向かっているという。この対応をどうするか」

メモ

状況説明 A 「避難所内で空腹を訴えるひとや水をほしがる声が増えている。」

発生課題③の内容

「さきほどから、この避難所にいるのではないかと、安否確認をする人が10人ほど来ている。山田太郎さん、秋田徹さん、岩井道子さん、木下良子さんなど、それぞれ住所と年齢を示しながら在・不在を確かめてきている。今後この安否確認はますます増えると思われる。どう対応するか」

メモ

発生課題④の内容

「ようやく、災害対策本部からおにぎり菓子パン800人分が届いた。これをどう配るか」

メモ

状況説明 B 「避難所の中では、こんな状況なのに市役所はいつたい何をしているんだ。自分たちのことが分
かっているのか、と非難する声がぼそぼそと出ている。」

発生課題⑤の内容

「トイレが詰まってきた。何とかしてくれと声が高まっている。水道は依然断水が続いている。どう対応するか」

メモ

--

発生課題⑥の内容

「被災者の中から『この地震災害はどこからどこまでひどい状況が起きているのか。情報がほしい』という要求が出てきた。どう対応するか」

メモ

謝 辞

本書は「ボランティアコーディネーターコース」のプログラムづくりに関わってくださった以下の企画委員の皆様のご協力により、発行することができました。記して感謝申し上げます。

(50音順、敬称略)

渥美 公秀	大阪大学コミュニケーションデザイン・センター助教授／日本災害救援ボランティアネットワーク 理事
黒田 裕子	阪神高齢者・障害者支援ネットワーク 理事長
栗田 暢之	レスキューストックヤード 代表理事
菅 磨志保	大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 特任助手／人と防災未来センター リサーチフェロー
田中 稔昭	日本災害救援ボランティアネットワーク 理事長
蓮本 浩介	ひょうごボランタリープラザ 交流支援部 主事
福田 信章	東京災害ボランティアネットワーク 事務局次長
堀江 和巳	ちばコープコンプライアンス推進室 危機管理担当
村井 雅清	被災地NGO協働センター 代表
山口 一史	ひょうご・まち・くらし研究所 常務理事（委員長）
山添 令子	コープこうべ生活文化・福祉部 統括部長

(平成17年5月現在)

コース終了後も、本章の執筆や監修にご協力いただいた委員の方に、感謝申し上げます。とりわけ委員長の山口一史さんには、プログラムづくりだけでなく、執筆から本書全体の監修に至るまで、本当に丁寧にご指導いただきました。心からお礼申し上げます。

将来、減災に関わる実務や研究を担っていくであろう若いNGO・NPOのスタッフや学生の皆様にも、コースの運営やファシリテーターとしてご協力いただきました。お礼申し上げます。

また、本書に貴重な写真をご提供くださった、豊岡市、「まち・コミュニケーション」、小林郁雄さんにもお礼申し上げます。ありがとうございました。

その他にも、多くの方々にご支援・ご協力をいただきました。ここに感謝の気持ちを記し、お礼に代えさせていただくとともに、このガイドが、被災者や被災地に対する理解を深め、自分達の地域の安全・安心を考える活動につながっていくことを祈念いたします。

菅 磨志保

(H14-16年度 専任研究員＝ボランティア分野担当)

災害ボランティア 実践ワークショップガイド

2006年8月

企 画 菅 磨志保
発 行 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
Tel (078) 262-5060 Fax (078) 262-5082
<http://www.dri.ne.jp>

印 刷 商工印刷株式会社
〒651-0094 神戸市中央区琴ノ緒町4丁目5-7
Tel (078) 221-1113

著作権は阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センターに帰属します。

